第６課　聖霊と聖い生活

【暗唱聖句】

「どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように」　第一テサロニケ5:23

【今週のテーマ】

神様は聖なるお方です。聖霊はその名にある通り聖なる神の霊です。本来私たちが近寄ることができないほど聖なる方なのです。このことを忘れてはなりません。同時に聖霊は、わたしたちをも神様と同じ聖なるものへと作り変えてくださいます。今週は聖くあること、また聖なる生活を送る意味を考えます。

【日曜日　神の聖さ】

「召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も生活のすべての面で聖なる者となりなさい。「あなたがたは聖なる者となれ。わたしは聖なる者だからである」と書いてあるからです」第一ペテロ1：15，16

ペテロのこの言葉はレビ記11章45節から引用されています。

「わたしはあなたたちの神になるために、エジプトの国からあなたたちを導き上った主である。わたしは聖なる者であるから、あなたたちも聖なる者となりなさい」レビ11：45

ここでわかることはまず、神様は聖なる方であるということです。神様の御品性として最もわたしたちがよく強調するのは「愛」かもしれません。しかし、聖書の中で最も神様の御品性（属性）として描かれているのは、実は聖さなのです。イザヤ6：3や黙示録4：8では「聖なる、聖なる、聖なる」と三度も繰り返しながら神様がたたえられています。

「彼らは互いに呼び交わし、唱えた。「聖なる、聖なる、聖なる万軍の主。主の栄光は、地をすべて覆う。」イザヤ6：3

「この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その周りにも内側にも、一面に目があった。彼らは、昼も夜も絶え間なく言い続けた。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者である神、主、かつておられ、今おられ、やがて来られる方。」黙示録4：8

神様の属性を3度も繰り返し語られているのはこの「聖」だけです。わたしたちはもっと神様が聖なる方であることを意識する必要があります。また驚くべきことに、神様が聖であるから、わたしたちにも聖なる者となれと言われています。そのようなことは可能なのでしょうか。そもそも聖とはどのような状態を意味しているのでしょうか。

【月曜日　聖の性質】

聖という言葉の元々の意味は「神へと分離されること」です。私たちが信仰によってキリストを受け入れた時、私たちは暗闇の支配下から御子の光の国の支配下へと移されました。

「御父は、わたしたちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移してくださいました」（コロサイ１：１３）。

この時点で私たちはこの世から神へと分離され聖とされたのです。つまり、私たち自身の中に聖なるものがあるのではなく、神様が聖としてくださるということです。ですから私たちは自分の状態を見て判断するのではなく、神の言葉のゆえに自分が聖なるものであることを信じる信仰が求められます。聖書はさらにこう言います。

「天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました」エペソ1:4

わたしたちは天地がまだ創造される前から神様から愛されており、聖なる者にするために、すなわちこの世から分離し神のものとなるために選ばれたと書かれてあります。これは実に驚くべみ言葉であり、深く瞑想するべきみ言葉であります。

では、わたしたちの側では何もすることはないのかというと決してそうではありません。わたしたちの側からも神様に常に近づく必要があります。聖書は次のように語っています。

「すべての人との平和を、また聖なる生活を追い求めなさい。聖なる生活を抜きにして、だれも主を見ることはできません」ヘブライ12:14

聖書は聖なる生活を追い求めなさいと言います。つまり、この世から離れて、もっと神様に近づきなさいということです。聖なる生活を追い求めることなし、だれも主を見ることはできません。エレン・G・ホワイトは次のように語っています。

「イエスに近づけば近づくほど、ますます欠点が多く見えてきます。それは自分の目が開けて明らかになり、イエスの完全さに比べて、自分の不完全さが大きくはっきりと見えてくるからです。これは悪魔の惑わしの力が失われ、人を活かす聖霊の力が働いている証拠です」

聖なる方に近づき、聖なる世界へ入っていくことによって、目が開かれ、この世がいかに汚れた世界であるか、自分自身がいかに欠点が多いのかが見えてきます。このことは逆に聖なる世界があることをはっきりとわたしたちに教え、その聖なる世界の素晴らしさに気づかせてくれる経験でもあります。

【火曜日　聖化の働きをするもの】

「あなたがたの中にはそのような者もいました。しかし、主イエス・キリストの名とわたしたちの神の霊によって洗われ、聖なる者とされ、義とされています」第一コリント6:11

「神は、わたしたちが行った義の業によってではなく、御自分の憐れみによって、わたしたちを救ってくださいました。この救いは、聖霊によって新しく生まれさせ、新たに造りかえる洗いを通して実現したのです」テトス3:5

わたしたちを聖なる者に作り変える力は聖霊からきます。自分自身で自分を聖なるものに作り変えることはできません。わたしたちができることは、ただキリストに信仰によって近づくことだけです。

「それで、イエスもまた、御自分の血で民を聖なる者とするために、門の外で苦難に遭われたのです」ヘブライ13:12

わたし達が聖となれるのは、つまりこの世から神へと分離されえるのは、すべてキリストが流された血の力によります。キリストの流された尊い犠牲によって清められ、聖となるのです。このことも決して忘れてはならないことです。わたしたちが聖なるものとなるために、いかに神様は多くの愛を注いでくださっているか、神の愛とわたしたちが聖とされることは一つにつながっているのです。

「わたしが言いたいのは、こういうことです。霊の導きに従って歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。肉の望むところは、霊に反し、霊の望むところは、肉に反するからです。肉と霊とが対立し合っているので、あなたがたは、自分のしたいと思うことができないのです」ガラテヤ5:16、17

わたしたちが主に委ねて聖なるものへと導かれていく過程において、つねにこの世の肉に対する思いとの戦いが起こります。それは霊と肉は相反することだからです。この戦いにおいて大切なのはキリストから目を離さないことです。

「こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。」12:1、2

【水曜日　聖さの物差しは神の律法】

「こういうわけで、律法は聖なるものであり、掟も聖であり、正しく、そして善いものなのです」ローマ7:12

律法は神様の愛のご品性の現れであり、それゆえ律法は聖なるものです。またガイドでは「律法は神の聖さの不変の物差しです」と記しています。律法はすたれることはありません。もしすたれるのであれば神の愛もすたれていくことになってしまいます。しかし、そのようなことはありえないわけです。律法の中心は愛だからです。

「愛は律法を全うするものです」ローマ13:10

わたしたちは聖霊に満たされ、聖なる生活を追い求めるならば、自ずと律法を守りたいと願うようになります。救われるために律法を守らなければならないと考えるなら、律法主義の罠にはまります。しかし、神の溢れる愛と憐みの中で、聖なる生活を送りたいと思うことは自然なことであり、当然その思いと律法は一致していくのです。この世界において、最初に神様が聖とされたのは安息日でした。

「この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第七の日を神は祝福し聖別された」創世記2:3

神様は第七日目を神の日として他の曜日から分離されたのです。これはなぜかというと、わたしたちのためです。

「また、わたしは、彼らにわたしの安息日を与えた。これは、わたしと彼らとの間のしるしとなり、わたしが彼らを聖別する主であることを、彼らが知るためであった」エゼキエル20:12

神様とわたしたちとのしるしとして、わたしたちに安息日を与えられたと記されています。何のしるしかというと、神様がわたしたちを聖別する主であることを知るためのしるしであると書かれてあります。わたし達は安息日ごとに、自分たちはこの世界から分離され、神のものとなっていることを、聖なるものとされていることを確認するのです。そのために安息日が与えられているのです。律法の第4条を守らなければ、わたしたちは自分たちが聖とされている大切なしるしを失うことになります。

【木曜日　清潔さの追求】

「すなわち、あなたがたは、以前の生活に属する、情欲に迷って滅び行く古き人を脱ぎ捨て、心の深みまで新たにされて真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである」エペソ4:22～24口語訳

古いままで良いとは聖書は教えていません。わたしたちは神の子としての成長が求められています。しかし、聖い品性は一夜にして築かれるものではありません。また、人間の努力で完成されるものでもありません。聖霊の働きに身をゆだね、逆らわず、主に自分自身を開けわたすことが大切です。しかし、このことをついつい忘れてしまいがちです。忙しく働いていれば聖化されるわけではありません。神様との聖い交わりを通して聖い品性が形作られていくのです。